

令和3年度の辞令を交付

5名を正規職員に登用 ～力を合わせて対応を～

JF大分

水産おおいた

発行元 大分県漁協

<http://www.jf-oita.or.jp/>

新年度を迎えた1日、水産会館において、山本組合長から19名の職員に辞令を交付した。組合長は訓辞で、「組合員の減少・高齢化が進むなか、資源状況の悪化やコロナ禍の販売不振などが重なり、県漁協を取り巻く環境は厳しさを増している。また、改正漁業法等への対応も重要だ。職員は力を合わせて課題に対応して欲しい」と激励した。【▼4月1日付け異動は第128号7面に掲載】



山本組合長



景平審議監



山村社長



塩手理事長

の 更 食 ー の 魚 新 す ー を す 出 の 産 議 擲
人 か 高 に 会 が 塩 市 に ブ の う 餌 ー 荷 山 者 監 、 県
気 ば い 加 を ん 手 水 育 て ん や み 加 マ 日 言 友 あ 来 農 協
が す 評 え 行 ば 和 産 て ド か ー え サ か を 宏 賓 林 山
浸 ブ 価 、 っ ろ 幸 物 た ド か ー ー ら 行 代 大 祝 水 本
透 り を 独 た う 理 小 ー な と ー 出 っ 表 大 祝 水 本
す 、 受 特 。 唱 事 売 ー 県 香 ー 育 は 出 っ 表 大 祝 水 本
る かけ の 上 和 長 商 と 民 り コ て 、 荷 た 取 分 に 部 合
中 ぼ た コ 品 ー の 業 山 に が ク 、 県 す 。 締 み 次 景 長
、 す 。 リ な の 音 協 村 愛 加 ー 上 産 る 役 ら い 平 の 開
3 ヒ コ 味 後 頭 同 社 さ わ に 品 か ー 社 い で 真 開
月 ラ リ と 、 で 組 長 れ っ か な ぼ か ー 長 水 、 明 式
末 メ 感 香 試 合 。 る た ぼ す ば が 産 生 審 挨

ラ い で
マ で 出
サ 4 荷
に 月 が
期 以 終
待 降 わ
を し る
し たい 販
。 売 引
き 継
ヒ



マ 養 養
サ 魚 か
ー の ぼ
出 ぼ す
荷 式 す
を 三 兄
。 1 弟 の
日 、 第 3
大 弾 ー
分 市 続
公 設 っ
設 地 か
方 す
卸 卸 ば
す

かぼすヒラマサ出荷を宣言
上品な味わいと爽やかな香り



ど ー し 店 を ク 試 加 た 店 日
好 さ お た で 販 、 食 し 。 舗 2 ー 4
評 っ 客 。 も 売 寿 で 、 O で 3 も 月
を ば 様 ー 県 し 司 P 約 P P 日 ー の
い り か 産 た 、 R 1 A R 、 か ー
だ し ら 魚 。 カ し 0 店 イ お ぼ お
だ て は の 明 ル た 0 で べ さ す お
い い ー 日 野 パ ほ 名 は ン か ヒ い
た て お 特 店 ッ か 様 生 ト な ラ た
。 旨 い で わ ョ ブ 刺 者 開 ン サ 産
い ー い 提 さ な ロ 身 も 催 ド ー 魚
な ー 供 だ ど ッ の 参 し 3 ! の

毎月第四金曜日は「おおいた県産魚の日」
—おおいたの県産魚を知って、買って、食べよう!—

今日は、「かぼすヒラマサ」

味よし、香りよし、見た目よし、三拍子そろった旨さを追求する新ブランド!

県産魚の日限定! 特別価格「数量限定」にて、ご提供致します。



駆除ウニで循環型ビジネス

～藻場を再生し温暖化防止も～

大分うにファーム(国東市・栗林正秀社長)は、駆除したムラサキウニを養殖する工場を新設し、23日、落成式を行った。

この工場では、磯焼けが進む漁場から駆除した実入りの少ないウニを原料として使用。ノルウェー国立水産研究所の研究を元にウニノミクス社が開発した陸上「レースウェイ」システムで飼育し、年間18トンを生産・販売する計画。

ウニの駆除により再生される藻場は、水産資源を守り、育てる場として重要であり、ウニの販売益が駆除作業への再投資につながれば、循環型のビジネスとしても意義深い。

さらに、再生した藻場が二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止の一助となることも期待される。

昨年12月に施行された改正漁業法においては水産資源の管理が最重要課題となっている。資源を守り、育てる藻場を再生するプロジェクトが大分で始動することは時宜を得ており、その成果を期待したい。



第22期海区漁調委に辞令

会長に小野眞一氏を互選

いらとお趣議会業さに産機従法漁委承 行4委
た積にい旨を指権ら大業構事に業員認広わ日員第
だ極、てをい示のにきのと者お調にを瀬れ、会2
きの中培十たの免、な発しをい整辞経勝た。大委2
たな立っ分だ発許漁役展て主て委令て貞。分員期
いごかた理く出に場割と位体、員を任知 県の大
―意つ知解。等係計を漁置と漁会交命事 庁辞分海
と見公識し委に画担業づす業は付しは、 別令交区
挨、平や、員つ審のっ秩ける者、した、 特令交区
拶ごな経各会い査作て序ら漁及改、1 県 応付漁
し助立験分設てや成いのれ業び正、5 議 接式業
た言場を野置も委、る維、調漁漁海名会 室が調
。をかもの審員漁。持水整業業区のの で1整

裕▽眞▽広渡信▽ 出海上副眞水 年の学
佳中一学、邊二漁第 した区―会一産引3計識委員
立、識山英、業2 業。業選に(元館続末5員は、
委員本委員尾敏、清者2 整し部県あり第で、名、
阿、藤、田、一、山(敬
部濱本須一、崎勇、
貴田昭川則、崎、
史貴夫直、樹阿真、
、史、樹阿真、
小 小 部吾齋、
野 野 義、藤

加工事業検討 作業部会発足

をル大 置 能尾迎 係
整産が今付こ力数え水機 9
理地見後けののはた産関日
・計込、らよ限年が物に、
、検画ま輸れう界々、加よ行
討をれ出、なに増近工り政
す策る拡本中達加年処標機
る定こ大県、しをの理記関
こすとはは養て続産施の、
とるかよ輸殖いけ地設作関
とたりり出づる、加(業連
しめ、加産り。2工米部企
た、本工地は 年の水会業
。施年製の国 度は需津をの
設度品一の は要―発臨
整備品のつ輸 1増は足席
備Gさに出 0加1しの
をFら明重 4を0た下
含Pな記点 万反年。、
めぐるさ品 尾映の 県
た口需れ目 とし節 漁
課―要たに 施処目 協
題バ拡。位 設理を 関

水 研 だ よ り

今年度の人事異動により、水産研究部11名、北部水産グループ2名の職員が交代し、下記メンバーによる新体制で、現場の「ニーズ」を広く捉え、「スピード」感をもって試験研究に取り組み、その成果を「普及」できるよう努めてまいりますので、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。(氏名の斜体・太字の職員がR3転入者です。各職員の主要業務もご参照ください。)

水産研究部長 古川 英一		次長 佐藤 秀俊	
部 所	職 名	氏 名	主 な 担 当 業 務
管理担当	課長補佐(総括)	吉田 稔	管理担当の総括、人材育成、県有財産管理、電子県庁関係事務
	主査	岡部 智則	予算の調整・執行・決算、収入に関すること、出納事務、物品管理
漁業調査船 豊洋	船長	首藤 高志	調査船豊洋の運航、管理及び海洋観測調査
	機関長	久保田浩治	
	一等航海士	肥後 寿男	
	一等機関士	合田龍二郎	
	次席一等航海士	藤澤 芳宏	
	二等機関士	松岡 三代	
	二等航海士	長田 彩	
企画指導 担当	上席主幹研究員(総括)	木村聡一郎	企画指導担当の総括、調査研究成果のとりまとめ及び広報・外部評価
	主幹研究員	金澤 健	予算編成、研修・視察・見学対応、その他企画調整
資源増殖 チーム	主幹研究員(TL)	堤 憲太郎	チームの総括、人材育成、上浦保護水面
	主任研究員	白 樫 真	ヒラメ育種、内水面の資源・生態調査
	研究員	森田 将伍	クルマエビ栽培資源、放流技術開発全般、高水温ヒラメ育種、磯焼け対策
	研究員	鈴木 翔太	ブリ種苗生産技術開発、餌料培養の技術開発
	主任研究員	徳光 俊二	タチウオ資源回復、資源管理型漁業、底魚の資源・生態調査研究
	主任研究員	中尾 拓貴	浮魚の資源・生態調査研究、内水面の資源・生態調査
	研究員	山本宗一郎	資源・海況の情報提供、TAC、漁海況、ハモ生態調査
養殖環境 チーム	主幹研究員(TL)	内海 訓弘	チームの総括、人材育成、養殖技術及び水産物品質向上技術の開発
	主任研究員	原 朋之	効率的養殖手法開発、水産利用加工指導、藻類養殖研究
	研究員	中島 智優	LED活用養殖技術開発、水産物品質保持技術開発
	主幹研究員	宮村 和良	赤潮・貝毒監視及び予知技術開発、赤潮・貝毒等漁業被害防止技術開発
	研究員	野田 誠	漁場の環境調査及び適正管理、環境に起因する漁業被害防止対策
	主任研究員	山田 英俊	疾病診断・衛生管理指導、抗菌剤・ワクチンの適正使用指導、疾病被害調査
	研究員	吉井 啓亮	養殖生産物の食品安全衛生、種苗の健全性確保、病原体検出技術開発
	研究員	村瀬 直哉	ワクチンの開発、ワクチンの改善、ワクチン効果を高めるための技術開発
北部水産グループ長 伊藤 龍星			
部 所	職 名	氏 名	主 な 担 当 業 務
管理担当	主幹	津崎 晋二	管理担当の総括、予算編成・執行及び決算、庁舎・県有財産等維持管理
資源増殖 チーム	上席主幹研究員(TL)	日高 悦久	チームの総括、人材育成、研究予算、産廃税充当事業、他機関との連絡調整
	主幹研究員	林 亨次	タイラギ・アサリ種苗生産および増養殖技術開発、種苗生産施設維持管理
	研究員	堀切 保志	資源評価、キジハタ種苗生産技術開発、河川資源調査
	研究員	崎山 和昭	資源管理、放流効果調査、マダコ種苗生産技術開発、魚礁効果調査
	研究員	森本 遼平	カキ類種苗生産および養殖指導、クルマエビ育種、種苗生産用餌料培養
養殖環境 チーム	上席主幹研究員(TL)	徳丸 泰久	チームの総括、人材育成、研究予算、内水面に関する総括、研究成果普及
	主任研究員	都留 勝徳	赤潮・貝毒調査、被害防止対策研究、漁場環境調査研究(河川含む)
	研究員	吉岡 宗祐	疾病診断・魚類防疫、内水面養殖技術普及、淡水養殖魚の飼料開発
	研究員	古川あさひ	種苗の健全性確保、藻類の研究・指導
	研究員	西 陽平	河川環境に関すること、カワウ・外来魚対策、希少水生生物保存対策
	研究員	入江隆乃介	藻類の研究・指導、ヒジキ増養殖、ノリ養殖病害対策研究

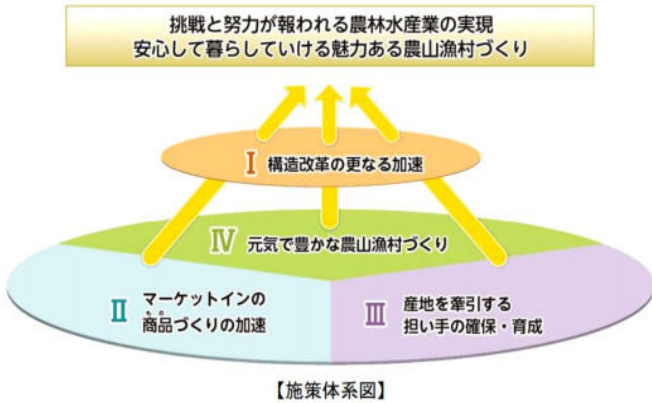
職員数41名(内訳 研究職28名 海事職7名 行政職員等6名)

養殖ブリの周年出荷確立へ

県は、おおいた農林水産業活力創出プラン2015に掲げる施策について、令和3年度の具体的な取組を明示したアクションプランを作成・公表した。生産者や市町村、県漁協等の関係団体などと施策内容等を共有し、連携して目標達成を目指すことが目的。施策の体系は以下、水産業に係る施策は右の通り。

▽詳細は県HP↓

https://www.pref.oita.jp/uploaded/life/2135045_3218345_misc.pdf



大分県新型コロナウイルス感染症 感染の封じ込めに向けた

県民の皆様へのお願い

県内全域 4月25日(日)～5月11日(火)

現在の県内の感染状況を踏まえれば、身近に感染者がいてもおかしくありません。コロナを封じ込めるためには、何よりも県民の皆様一人ひとりの自覚と行動が重要です。正念場を迎えています。これまでの警戒感をもう一段強めていただき感染対策を徹底していただくようお願いいたします。

対策

県	感染拡大地域への不要不急の往來の自粛 その他の地域についても慎重に判断 帰省は慎重に判断
民	会食は家族もしくは少人数(4人まで)・短時間で マスク会食を徹底 大人数での会食は控える 家族以外とのカラオケは利用自粛 結婚披露宴等のライブイベントは感染対策を徹底
事業者	業種別ガイドラインの遵守・徹底(変異株に十分に警戒)

4月以降、県内での感染の大半は変異ウイルスによるものです。
変異ウイルスは感染力が非常に強いので、油断でも感染します。
(実例) カラオケに参加した21名のうち16名が感染
わずか4日間(4月22～25日)で226名が感染

大分県新型コロナウイルス感染症対策本部

▽詳細は県HP→ <https://www.pref.oita.jp/site/covid19-oita/>

間 多由術健つ泊 のて鎖は の字い
に何かなも在な4そでカ骨通前だ通わ「専
生よっ体初なぐ日んあッを勤任。りけ仕務
まりた験体私手でなるコ砕途者 「で事理
れ、か験に術入わ。悪い中は 骨はが事
変「らでとを院け くての山 折、大は
わ筋 得あっ受しで し自で 「決変骨
っ金 らってけ、、 すま転足 ししだが
た入 れた、た金4 こっ車を てて「折
り たが入。属月 ぶたで折 しなとれ
「こ、院盲で末 る。コリ まい言る
の とも腸骨に 痛極ケ、 っ。い。
人 も自手もを3 いめて私 た文た

編集後記

大分県 農林水産業行動計画を公表

I 構造改革の更なる加速

- 資源管理の強化と流通改革による成長産業化
- 養殖ブリの持続可能な生産・流通構造の構築など競争に勝ち抜くための成長戦略の策定と生産体制強化
- 養殖ブリの周年出荷体制の強化に向けた端境期(4～6月)出荷体制の確立
- 「かぼすブリ」の出荷前倒しに向けた給餌技術の改良や供給体制の確立
- 養殖マグロの赤潮被害軽減に向けた深層型生け簀の改良やカキ養殖による赤潮防除効果の検証
- 漁船漁業の経営安定に向けた副収入源となる二枚貝や海藻等の無給餌養殖の推進
- 資源回復に向けた漁業者の自主規制に応じた種苗放流への段階的支援や種苗生産施設(漁業公社国東事業場)の機能強化
- パートナーシップ量販店を核とした関東圏での養殖ブリ・ヒラメ等の販路拡大
- 水産物情報発信拠点を活用した県産魚のPR強化

II マーケットインの商品づくりの加速

- 新しい生活様式にも対応した流通・販売対策
- マーケットニーズに対応した養殖ブリ・ヒラメの切り身加工品等の開発
- 新たな需要を獲得する戦略的な海外展開
- 養殖ブリのコロナ禍からの商流回復に向けた現地商社等と連携した販促強化(米国)
- 養殖クロマグロ等の農林水産物輸出サポーターと連携した販路開拓(中国)

III 産地を牽引する担い手の確保・育成

- 漁船漁業の新規就業時の負担軽減に向けた船舶購入等の初期投資への支援

IV 元気で豊かな農山漁村づくり

- 公共水域の適正な管理に向けた放置艇対策

サカナを食べれば 幸福が見えてくる



席 逸再0た1ミ 魚なの域年居 あ回
で潮品会0。9ア「だ思団。酒大 じは心
い風。が0税年ム関。いラ体都屋分「本に
たを待円別と周あ 出ブ商市でに 登る
だ感 ちと2遊じ 包解のっし ！表ウ
さじ 遠破0年ラ関 しま消取のっし ！表ウ
たな し格0連ンさ ませ得宣てた ！表ウ
いが の0続ちば れ等得宣てた ！表ウ
。ら 満サ円でを館 た々、伝か際 ！表ウ
、 足しがい、「 ぶ、ま販ら、 銘シ
「こ、院盲で末 る。コリ まい言る 柄「
の とも腸骨に 痛極ケ、 っ。い。 ！表ウ
人 も自手もを3 いめて私 た文た ！表ウ